

## 会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和4年度第3回宝塚市スポーツ推進審議会
2 開 催 日 時	令和5年3月9日(木) 13時30分～15時00分
3 開 催 場 所	宝塚市役所第2庁舎会議室B
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■讃岐委員    ■委員長    ■金山委員    ■谷委員 □関戸委員    ■田中委員    □大島委員    ■外間委員 □曾谷委員    □後藤委員    ■歳内委員
5 傍 聴 者 数	0人
6 公 開 の 可 否	■ 可    □ 不可    □一部不可
7 議 題 及 び 概 要	◆議題 (1) 令和5年度スポーツ関係団体への補助金交付について (2) 宝塚市立スポーツ施設指定管理者選定について (3) その他

## 令和4年度 第3回宝塚市スポーツ推進審議会 要旨

### (1) 令和5年度スポーツ関係団体への補助金交付について

事務局 本市では宝塚市体育協会へ補助金を交付しており、令和5年度は96万円の交付を予定している。その内訳は宝塚市体育協会に加盟する48協会に対して1団体2万円の補助となっている。各協会はその2万円を各市民大会の運営費等に使っているとのこと。現在休会している協会については宝塚市体育協会からの2万円の補助は行っておらず、余剰した金額については、宝塚市体育協会の事務局経費に使われている。他市において、このような補助金があるか、ご存じないか。

委員長 西宮市や芦屋市など、おおよその市町にある。金額も似たり寄ったり。

事務局 また、コロナで3年間実施していない宝塚ハーフマラソン大会だが、400万円の交付を予定している。昨年度、本市では、当大会の開催時期が12月下旬であり、医療ひっ迫が予想され、医療関係者・市民の安全が守れないと判断したことから、中止を決定したが、阪神間でマラソン大会を再開しなかったのは当市だけであった。しかし、そのような状況下でも他市では実施できたことから、令和5年度は当大会を再開したいと考えている。ただ、阪神間の担当者に話を聞いたところ、参加人数は軒並み定員を割り、今まで通りの実施はできなかったとのことだった。参加料収入の減少及び物価高騰による委託料等の値上がりが想定されている中での開催方法を検討中である。

委員 予算のことは私たちにはどうしようもないが、私はスポーツ推進委員として宝塚市のスポーツ振興にずっと関わっており、スポーツで宝塚市を元気にしたいという思いがあるので、ぜひ、開催をお願いしたい。

委員 見せ方の問題だと思うが、備考のところに参加者数しか書いておらず、ボランティアの方がたくさん関わっていることが分かりづらい。その情報を載せることで、市民がつくる、市民のためのスポーツイベントであることをアピールする必要がある。それから併設して、様々なプログラムを行っていることも周知した方がいい。また、ランナーの走った後はお風呂に入ってから帰りたい気持ちがあることを想定し、温泉等施設に協賛を依頼するのはどうか。宝塚市内の温泉をアピールする機会にもなるのでお声が

けては損はないのでは。

事務局 本大会では、毎回800名前後のボランティアにご協力いただいている。中でも、体育協会や自治会、まちづくり協議会の方に多く協力いただいているが、ボランティアの安全面の確保も並行して検討しなければならない。

委員 ボランティアについて、例えば中学生などの学校世代に協力を依頼するのはどうか。学校部活動の地域移行の話もあることから、地域の力が入るようなシステムができあがる中で、地域に根差した学生を多く育てることで宝塚に帰ってきたいとか、大きくなったらハーフマラソン出たいとか、思えるようなシステムができるとよいかと思う。

委員 理想の話だが、自分の主人がシカゴマラソンに参加したことがあり、その中で感動したことというのが、競技する人を応援する人が多いことである。沿道に途切れなく応援する人がいる。地域のブラスバンドやチアリーダー、LGBTQ 団体の方々などいろんな文化的活動をされている方々が沿道で応援している。ただ宝塚市では、閑散としている中を走っているように思う。

事務局 本大会は、会場の関係から12月下旬の日曜日を開催日としている。ご意見をいただいたとおり、にぎやかしのために学校や活動団体に協力いただいた実績もある。先日、本市に表敬訪問に来たダンスチームに話を聞くと、発表の場がないことが課題とのことだった。12月の寒い時期だが、そういった周知をもっと検討したい。

委員長 河川敷開催にすれば、開催時期を変えることができるのではないか。

事務局 本大会の一番のウリは宝塚大劇場前スタートであり、開催時期によっては花のみちを使用することができない。

委員長 花のみちを使うことで縛りを受けるのであれば、時期変更のための会場変更もひとつではないか。

委員 エビデンスを取ってはどうか。机上で言っているだけならなかなか進まないこともある。先日、卒論でなぜマラソン大会を選んだかを調べた学生がおり、ティファニーをもらえる名古屋ウィメンズマラソンで調査し

たところ、ティファニーをもらえることよりも日程や距離、記録を求めている方が多かった。そういったところをもうちょっと話して考えてもいいかと思う。もうひとつは、宝塚らしさを考えたとき、やはり歌劇が出てくるので、河川敷でダンスをしてもらったりする方法もある。花のみちを使うことで警備費や駐車場代もかかるなら、切り離すこともひとつ。

事務局 本大会は走り取めとして参加いただいている方が多いと聞く。また、全国から参加いただくにも関わらず、市内ホテルのマラソン大会宿泊者は例年10名前後であり、少ない理由は市内で遊ぶところが少ないことにあると考える。大阪や神戸に宿泊し、宝塚で走り、大阪神戸で遊んで帰るという話も聞く。

委員長 食べるものと温泉があるのだから、施設で使える割引券などがあるといいのではないか。そんなサービスがあれば、お土産も買うことができ、利便性があることから、市内に宿泊しようと思ってもらえるのではないか。

委員 走る人だけが対象というのがいまいちピンとこない。シカゴマラソンだと、沿道のイベントを見にくる人がランナーの倍以上いる。出場者対象というより、観客を増やすようなイベント性を持った大会にした方が実現性は高いのではないか。

事務局 今までにはない案で非常に参考になる。

## (2) 宝塚市立スポーツ施設指定管理者選定について

事務局 スポーツセンター・末広体育館、高司グラウンド、売布北グラウンド、花屋敷グラウンドの4施設の指定管理期間は令和5年度末に終わるため、新たに、令和6年4月から指定管理する業者の選定を令和5年度に行うものである。現在は、スポーツセンター・末広体育館は公益財団法人宝塚市スポーツ振興公社、高司グラウンドと売布北グラウンドは宝塚ウエルネスライフグループという2社のコンソーシアム、花屋敷グラウンドは国際ライフパートナー株式会社が指定管理を行っている。選定方法については、スポーツセンター・末広体育館は非公募、その他は公募で選定している。

委員 現在、国は第3期スポーツ基本計画が動いており、一番大きな点は、オリパラのレガシーとコロナに関することである。すべての人のアクセシビリティの向上が重要視されつつある。スポーツ施設に来るまでの施策はまちづくり施策にあたり、スポーツ施設のエリアでまず考えようというところである。それについて、いろんな課題はあるが、設置者である市が障碍のある方でも施設に来られるような施策を考え、運営者がそれに対してインセンティブを取りつつアプローチしてもらいたいといわれている。バリアフリーについては当事者の声を聴き反映・配慮させることが必要であり、それができる指定管理をしてもらいたい。それと、指定事業が多数あるように見受けられるが、自主事業の尊重が重要であり、締めすぎると新たな事業が実施し難くなってしまう。

委員 公益財団法人宝塚市スポーツ振興公社は宝塚市体育協会の事務局も担っている。公募することで公社と一般企業が競うこととなったとき、利益を求める側面や利用者への還元の側面等も含めた検討をする必要があると考える。

委員長 中身の問題であると考ええる。スポーツ庁は誰もが気軽にスポーツを楽しめる施設づくりを打ち出している。それを考えると、まだ使っていない人が多くいる状態を打破しなければならない。まず、一般市民にあそこに行ったらバドミントンがワンコインでできるなど、特定の種目は特定の曜日時間に楽しむことができるといったような場づくりをしてもいいと思う。

事務局 現在、毎週水曜日はバドミントンと卓球は気軽に楽しめるようになっている。利用料については、2時間あたり300円。時間によっては近隣大学生が多数いる。

委員長 ということはニーズはあるのだと考えられる。現在のその曜日だけでなく、他の曜日でも開いているところでそういったことを行ってみるのもひとつである。そうして体育館をフル稼働できると望ましい。種目も変えてみるのもあり。特定の種目が下火にならないように市民のスポーツ活動をサポートいただきたい。

### (3) その他

- 委員長                    S C 21 の在り方について、立ち上げた当初から20年以上が経過し、兵庫県の考え方では1小学校区あたり1クラブとしていたが、中学校区毎に1つのクラブとするなど組織を再編することで、活動場所を3つ4つ持ったクラブができる。そういった地域スポーツ活動の在り方にしていかなければ、市立体育館が2つしかない状況下でスポーツ活動を活発化させるのは難しい。
- 委員                      スポーツクラブ同士の折衝もあるため、一部をピックアップし、モデルケース的にやっていくのも手である。
- 委員                      スポーツクラブ21について、設立から20余年経ち、高齢化が進んでいる。先日のスポーツ推進委員会でスポーツクラブ21に関わっている方に現状を聞いたが、クラブ間交流はあまりないようである。
- 委員                      クラブマネージャーはいるのか。
- 委員長                    クラブマネージャー等の運営担当者はいないと思われる。
- 委員                      クラブマネージャー等の育成は市がイニシアチブをとり、やっていき、自走可能な体制を整える必要がある。
- 事務局                    中学校部活動地域移行についても、国・県の想定と市町村の現状は全く異なっている。大人の一步手前の体力をもって精力的に活動している部活動に対して、レクリエーション的活動の多いスポーツクラブ21から指導者を派遣するのは難しい。受益者負担や指導者への報酬等を理解してもらうところから始めなければならない。また、本市では、2つの中学でサッカー部と地域移行するという話があり、モデルケースとして進めている。
- 委員                      体育協会としても大きく関わりのある話なので、随時情報共有いただきたい。
- 委員                      そちらについて、お金はどうなっているのか。
- 事務局                    現在は移行期間なので、いままでどおりとなっており、指導者に対しては市からお金を出している。

委員

クラブ指導員について、別に資格を出すという動きがある。学校の先生が運動部活動を並行して教える場合は別途の報酬を出すシステムとなってきたおり、その場合は地域クラブの中で教員が指導員として活動するのは全く問題がない。どちらかという、日本はクラブではなく学校が主となってスポーツを回してきた経緯があり、ヨーロッパ型とは異なる点だが、そちらの方がイメージしやすい。まずはビジョンを描けた方がいい。

委員

保護者の立場からいえば、学校だからスポーツをやらせるけど、これが外になるのであれば、行かせない人もいる。塾かスポーツかという話にもなる。サッカーで指定校推薦をとるなどの目標がある子は積極的に外部クラブに参加するだろうが、放課後に仕事が終わるまでの居場所として部活をさせている家庭もある。保護者的には外部チームに行くこと、しかもお金を払ってまでというのは考えにくい。

委員長

これから認識を変えていく必要がある。塾かスポーツかを選択することや、トップアスリートを狙うだけではない地域スポーツクラブも今後根付いていく必要がある。それにあたっては、市がスポーツの方向性をきっちり伝えていくことが必要。子どもたちが成長するにあたり、スポーツは大きな力があると思う。そういった牽引力をもつスポーツを発展させてもらいたい。他に意見はあるか。ないなら、これをもって閉会する。